

慶應義塾大学法学部 人文科学研究会
卒業論文
2020 年度

フレンチ・ミュージカルとウィーン・ミュージカルの日本受容
— 『エリザベート』(1992) と 『ノートルダム・ド・パリ』(1998) を例に —

法学部政治学科 4 年
学籍番号 31758602
常森悠花

目次

はじめに

I 欧州型ミュージカルの特徴

II 日本での上演作品とその傾向

- 1 観客の前提知識の重要性
- 2 スター・システム

III 事例①：『エリザベート』（1992）の場合

- 1 作品の概要
 - (1)主な登場人物
 - (2)あらすじ
- 2 日本での上演記録
- 3 『エリザベート』が日本でヒットした理由
 - (1)作品に対する観客の前提知識
 - (2)登場人物への共感
 - (3)作品の上演方法

IV 事例②：『ノートルダム・ド・パリ』（1998）の場合

- 1 作品の概要
 - (1)主な登場人物
 - (2)あらすじ
- 2 日本での上演記録
- 3 『ノートルダム・ド・パリ』が日本でヒットしなかった理由
 - (1)作品に対する観客の前提知識
 - (2)登場人物への共感
 - (3)作品の上演方法

おわりに

参考文献リスト

はじめに

近年、フレンチ・ミュージカルやウィーン・ミュージカルが日本で上演されることが多くなっている。そもそも、日本でこうした海外ミュージカル作品が初めて上演されたのは、東宝によるブロードウェイ発の『マイ・フェア・レディ』（1963年日本初演）であった¹。そしてそれ以降、劇団四季による『ジーザス・クライスト・スーパースター』（1973年日本初演）や『キャッツ』（1983年日本初演）などの翻訳公演が行われた²。もちろん、日本国内で制作されたオリジナル作品の上演も行われていたが、とりわけブロードウェイやウエストエンドの作品が多く上演されており、『ウエスト・サイド物語』（1964年日本初演）、『サウンド・オブ・ミュージック』（1965年日本初演）、『オペラ座の怪人』（1988年日本初演）、『レ・ミゼラブル』（1987年日本初演）などはまさに、日本人が「ミュージカル」と聞いてまず初めに思い浮かべるような、海外ミュージカル作品の代表作といえるだろう。

こうしてミュージカルが次第に日本に定着し、人気を集めるようになってきたなかで、2000年代以降に発展してきたのがフランスやオーストリア発のミュージカルである。以下は、日本で上演された代表的なフレンチ・ミュージカル、ウィーン・ミュージカルの作品である。

《主な作品と日本での公演年》（青字は宝塚歌劇団での上演）

『ロミオとジュリエット』（2001、仏）...2010、2011、2012、2013、2011、2013、
2017、2019

『太陽王—ル・ロワ・ソレイユ—』（2005、仏）...2014

『1789—バスティーユの恋人たち—』（2012、仏）...2015、2016、2018

『ロック・オペラ モーツァルト』（2009、仏）...2013、2019

『エリザベート』（1992、奥）...1996、1996～97、1998～99、2000、2001、2002～
03、2004、2005、2005、2006、2007、2008～09、
2009、2010、2012、2014、2015、2016、2016、
2018、2019

『モーツァルト！』（1999、奥）...2002、2005、2007、2010～11、2014～15、

¹ 渡辺諒・下川晶子「日本のミュージカル受容」岩崎徹、渡辺諒編『世界のミュージカル・日本のミュージカル』春風社、2017年、234頁。

² 前掲書、237-238頁。

2018、2021

『ダンス・オブ・ヴァンパイア』(1997、喫)...2006、2009、2011~2012、2015、
2016、2019~20

このように、日本では欧州発のミュージカルが数多く上演され、いくつかの作品は何度も再演を重ねている。特に、宝塚歌劇団や東宝では『エリザベート』をはじめ、フランスやオーストリアのミュージカル作品を多く上演している。では、このような欧州発のミュージカル作品が日本で上演されヒットできたのは、どのような要因によってであろうか。本研究では、「フレンチ・ミュージカルとウィーン・ミュージカルはどのような要因によって日本でヒットしやすくなるか」を問いと設定する。そして、その問いに対して「フレンチ・ミュージカルとウィーン・ミュージカルは、観客の作品に対する前提知識と共感、スター・システムの採用によって日本でヒットしやすくなる」という仮説を立てる。

この仮説を確かめるために、本論文は次のような構成で展開していく。まず、フレンチ・ミュージカルとウィーン・ミュージカルの特徴について考察する。そして、事例研究として『エリザベート』(1992)と『ノートルダム・ド・パリ』(1998)の比較を行い、欧州発のミュージカル作品が日本でヒットしている理由を考察する。

なお、本論文では、「日本でヒットした作品」の定義を「日本での初演後、5年以内に再演が行われた作品」とする。これは、多くの作品の場合、観客動員数や興行収入が公開されていないためである。作品が再演されるということは、前回の公演期間である程度の利益を達成したということであり、再び上演することで一定の収益が見込めるからであると考えられる。そこで、5年以内という任意の期間を設定し、5年以内に再演が行われたものはヒットした作品とみなすこととする。

また、ミュージカルという演劇形態が発祥・発展したアメリカのブロードウェイ・ミュージカルに対して、フランスとオーストリア発のミュージカルを「欧州型ミュージカル」と分類する。1980年代に躍進したイギリス発のウェストエンド・ミュージカルのなかでも、『レ・ミゼラブル』(1985)(原作小説および原型となった1980年のミュージカル作品はフランス発)や、特にイギリス人作曲家アンドリュー・ロイド・ウェバー(Andrew Lloyd Webber)による一連の作品は、フレンチ・ミュージカルやウィーン・ミュージカルよりも早い時期に制作・上演され、日本でもヒットしていたが、次章でみるような欧州型ミュージカルの特徴の多くをすでに有しているため、のちの欧州型ミュージカルに大きな影響を与えた先駆と捉えられる。

I 欧州型ミュージカルの特徴

初めに、欧州型ミュージカルの特徴としてオペラ調、ロックの要素、スペクタクル性の

3つがあると考えられる。そこで、本章ではこれらの特徴について詳しく解説していく。

まず、欧州型ミュージカルの特徴の1つ目に、楽曲がオペラ調であり、曲数が多いという点が挙げられる。オペラのレチタティーヴォのように台詞にメロディが付けられ、作品のほとんどが歌によって構成されているのである。一方、ブロードウェイ・ミュージカルの場合、台詞 → 歌 → 台詞と分けられていることが多い³。具体的な作品には、『ウエスト・サイド物語』(1957)、『ウィキッド』(2003)、『アラジン』(2011)などが挙げられる。

また、2つ目の特徴として、楽曲がロック調であるという点を挙げる。この背景にはウェバーによるロンドン発のロック・オペラ作品の影響がある⁴。ウェバーはロンドン・ミュージカルの時代を築いた作曲家であり、『ジーザス・クライスト・スーパースター』

(1971)、『エビータ』(1978)、『キャッツ』(1981)、『オペラ座の怪人』(1986)など数々の作品を手掛けてきた⁵。こうした彼の作品はオペラ調の楽曲、ロックの要素、スペクタクル性がみられる。そして、彼のロンドン・ミュージカルがフレンチ・ミュージカル、ウィーン・ミュージカルの発展のきっかけとなったのだ。例えば、フレンチ・ミュージカルでは、『ノートルダム・ド・パリ』、『太陽王』(2005)、『ロック・オペラ モーツァルト』

(2009)、『1789—バスティーユの恋人たち—』(2012)など多くの作品の楽曲にロックが取り入れられている。また、ウィーン・ミュージカルについていえば、『エリザベート』の作曲を手掛けたミハエル・クンツェ (Michael Kunze) は自身の作品を「ドラマ・ミュージカル」であると主張している⁶が、一部の楽曲にもロック調が取り込まれている。ミュージカルにおけるロック要素は、イギリスのウェバーから始まり、オーストリアとフランスで更なる発展を遂げたのである。

そして、3つ目の特徴はスペクタクル性である。フレンチ・ミュージカルの代表作である『ノートルダム・ド・パリ』の作曲家、リシャール・コッシアンテ (Richard Cocciante) は、この作品は単なるミュージカルではなく「スペクタクル・ミュージカル」であると主張した。彼の説明によれば、スペクタクル・ミュージカルはクラシックとロックが合わさった楽曲のように、「現在と過去、時間的なものと時間を越えたものを混淆すること」⁷が特質である。フレンチ・ミュージカルもウィーン・ミュージカルも豪華で壮大

³ 渡辺諒『フランス・ミュージカルへの招待』春風社、2012年、11頁。

⁴ 渡辺諒「スペクタクル・ミュージカルの構成と変容」岩崎、渡辺編『世界のミュージカル・日本のミュージカル』63-64頁。

⁵ ウェバーの経歴については、小山内伸『進化するミュージカル』論創社、2007年、36-37頁。

⁶ 渡辺芳敬「ウィーン発ミュージカル『エリザベート』」『学術研究(複合文化学編)』第58号、2010年2月、15頁。

⁷ 渡辺諒「作曲家リシャール・コッシアンテ インタビューレポート」2013年、<http://www.harmonyjapan.com/ndp2013/interview.html>、2021年1月9日アクセス。

な舞台装置が使われ、アンサンブルキャストによる本格的なダンス・パフォーマンスがあるという点でスペクタクル性を有している。このような大衆に向けたエンターテインメント性の高さが欧州型ミュージカルの人気を呼んだ一因であるといえる⁸。

II 日本での上演作品の傾向

前章では欧州型ミュージカル全体の特徴について述べた。しかし、これらの特徴が「日本でヒットした」ことの直接的な理由となるとは限らない。日本で欧州型ミュージカルがヒットした理由には、日本におけるミュージカルの上演方法や、日本人の嗜好などの要素がより重要であると考えられる。そこで、本論文の仮説の中で挙げた「作品に対する観客の前提知識」と「スター・システム」に注目し、日本で上演されるフレンチ・ミュージカル、ウィーン・ミュージカルのヒット作品の傾向について考える。

1 観客の前提知識の重要性

ミュージカル作品には、制作した国の文化や歴史、社会問題などが背景に含まれることが多いが、海外ミュージカル作品を日本で上演する場合、そのような背景を観客が理解しづらいことが考えられる。そのため、海外ミュージカルに関しては特に、日本人が前提知識を持っている作品の方が、好まれる傾向にあるのではないかと考える。

日本で上演されたフレンチ・ミュージカルやウィーン・ミュージカルの題材は、歴史的な出来事、人物を扱った作品や有名な戯曲、小説をもとにした作品が多い。例えば、『モーツァルト!』（1999）は、タイトルの通り、有名な音楽家のヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの人生が描かれたミュージカル作品である。そして、『1789—バスティーユの恋人たち—』の場合も、1789年に起きたフランス革命を題材にしている。また、有名な戯曲、小説を扱った例としてはウィリアム・シェイクスピア（William Shakespeare）の戯曲をもとに制作されたミュージカル『ロミオとジュリエット』

（2001）が挙げられる。シェイクスピアは『マクベス』『リア王』なども手掛けた歴史的に偉大な、イギリスの詩人、劇作家である。『ロミオとジュリエット』のような古典的な有名戯曲の場合は、日本人にも前提となる知識があるため、ミュージカル作品にも興味を持ちやすく、内容を理解しやすいという利点が考えられる。

2 スター・システム

⁸ 渡辺『フランス・ミュージカルへの招待』36-44頁。

スター・システムとは、舞台作品の配役において、メインキャストに人気のある俳優を起用するシステムである。日本の演劇界では宝塚歌劇団をはじめ、東宝、ホリプロなどの芸能プロダクションがこの形式をとっており、日本の特徴的な興行制度である。この制度が海外ミュージカルの日本上演を成功させた一因であることは十分に考えられる。実際、フレンチ・ミュージカル、ウィーン・ミュージカルの作品を多く日本で上演しているのは主に宝塚歌劇団や東宝であり、どちらもスター・システムをとっている。

宝塚歌劇団では主役の男女を組のトップスター、トップ娘役が務め、それに続く主要キャストを2番手、3番手の男役が務めるという形式をとっている。この構造は退団や組替えなどの人事異動がない限り、基本的に変動しない。作品が変わったとしても主要キャストの配役は固定的なのである。そのため、宝塚ファンは自分の好きなスターが出ているという理由で観劇することが非常に多い。そして、タカラジェンヌにはそれぞれのファンクラブが存在し、ファンクラブを通してチケットを入手することができる。つまり、多少知名度の低い作品であっても、ファンの存在によって一定の集客が見込めるのだ。

東宝やホリプロ、アミューズなどの場合も主要キャストに人気のミュージカル俳優、芸能人たちを起用するスター・システムが採用されている。例えば、花總まり、昆夏美、生田絵梨花、山崎育三郎、井上芳雄、城田優などは数多くのミュージカル作品に起用されている。また、小池徹平が『1789—バスティーユの恋人たち—』（2015年日本初演）で主役のロナン役、高畑充希が『ミス・サイゴン』（1992年日本初演）（高畑充希は2020年公演に出演予定であったが新型コロナウイルスの拡大により全公演中止）でキム役を務めるなど、テレビで活躍する俳優をキャスティングすることもある。このようにスター・システムは、海外ミュージカルを上演する際に、観客数を確保しやすいというメリットがあると考えられる。

Ⅲ 事例①：『エリザベート』（1992）の場合

1 作品の概要

先に挙げた仮説を確かめるために、2つのミュージカル作品を取り上げ、比較を行う。本章では、1つ目の事例として日本で最もヒットした作品の一つであるウィーン・ミュージカル『エリザベート』を扱う。

まず初めに『エリザベート』の概要を説明する。この作品は、オーストリア皇后のエリザベートの人生を描いている。脚本・歌詞をミヒャエル・クンツェ、音楽・編曲をシルヴェスター・リーヴァイ（Sylvester Levay）が手掛け、1992年9月3日にアン・デア・ウィーン劇場にて初演された。その後、1996年2月に日本版、同年8月にハンガリー版、2001年3月にドイツ版が上演され、オランダ、イタリア、スイス、フィンランド、スウ

エーデン、韓国など、13カ国8言語で上演が行われ、1,180万人以上を動員している⁹。

(1) 主な登場人物

エリザベート：オーストリア＝ハプスブルク帝国の皇后

トート（死）：黄泉の帝王、エリザベートに恋をする

フランツ＝ヨーゼフ：オーストリア＝ハプスブルク帝国の皇帝、エリザベートの夫

ルイジ＝ルキーニ：アナーキスト、エリザベートを暗殺

ルドルフ：皇太子、エリザベートの息子、自殺する

(2) あらすじ

舞台は1898年のエリザベート暗殺から100年後の煉獄から始まる。エリザベートを暗殺したルイジ・ルキーニは黄泉の世界の煉獄で尋問を受けていた。自身の罪を認めず、黄泉の帝王トートがエリザベートを愛していたからだと証言するルキーニは、エリザベートにゆかりのある死者たちを蘇らせる。彼らはエリザベートについて語り始める。

時は19世紀後半にさかのぼる。自由奔放な少女エリザベートは綱渡りに失敗し、生死の境をさまようが、トートはエリザベートに心を奪われ、彼女の命を奪うことを諦める。その後オーストリア皇太子フランツ・ヨーゼフのもとに嫁ぐこととなったエリザベート。しかし、宮廷での皇后としての生活は彼女にとって窮屈であり、牢獄も同然であった。そんなエリザベートにトートは死の誘惑を度々与えるが、彼女は誰にも支配されずに生きるという意思を貫き、死を拒絶し続けた。その後、自身の美貌を利用しながら、オーストリア皇后として生きるエリザベートであったが、夫との間にすれ違いが生じ、思い悩む息子ルドルフを置き去りにして一人、魂の自由を求めて旅を続ける。そしてついに、彼女が死を愛して受け入れる時が訪れる...¹⁰。

2 日本での上演記録

次に、『エリザベート』が日本においてどれほどヒットしたかを判断する。本論文では「日本でヒットした作品」の定義を「日本での初演後、5年以内に再演がおこなわれた作品」としているため、上演記録をもとに評価する。『エリザベート』は、1996年2月宝塚歌劇団雪組での初演後、同年11月に宝塚歌劇団星組によって再演され、さらにその2年

⁹ VBW International, *Elisabeth-SUCCESS STORY & PRODUCTION NOTES*, <https://www.vbw-international.at/home/elisabeth> (accessed December 28 2020).

¹⁰ 宝塚歌劇団『三井住友 VISA カードミュージカル エリザベート』プログラム、2014年。

後にも再演が行われている。宝塚では 1996 年からこれまでに合計 10 度にわたる上演が行われており、2018 年の公演期間中には宝塚における観客総動員数 250 万人を記録した¹¹。また、東宝でも 2000 年に初演が行われて以降、10 度の再演が行われ、公演回数は合計で 1,398 回にのぼる¹²。なお、2020 年には 20 周年記念として東宝で公演が行われる予定だったが新型コロナウイルスの感染拡大により公演は中止となった。

以上のように、『エリザベート』は初演から 5 年以内に再演が行われており、かつ、25 年間のなかで幾度となく再演されている作品である。そのため、日本でヒットした作品と判断できる。

3 『エリザベート』が日本でヒットした要因

(1) 作品に対する観客の前提知識

最後に、『エリザベート』が日本でヒットした理由について考察を行う。ここでは、「フレンチ・ミュージカルとウィーン・ミュージカルは、作品に対する観客の前提知識と共感、スター・システムの採用によって日本でヒットしやすくなる」という本論文の仮説をもとに、作品に対する観客の前提知識、登場人物への共感、スター・システムの採用という 3 つの要因を分析していく。

まず初めに、作品への前提知識について分析する。『エリザベート』は歴史上の人物を題材にした作品であり、オーストリア・ハプスブルク家の皇后が主人公である。このような歴史をもとにした作品の場合、最初に原作が上演された国の観客と、外国の観客とでは作品の捉え方も異なり、評価が分かれる場合がある。この作品においても、エリザベートはオーストリアで「シシィ」の愛称で親しまれる人気の皇后であるが、日本では歴史上有名な人物とは言い難かった。しかし、「ハプスブルク家」という言葉は、日本の観客にも前提となる知識があったと考える。その発端は、『エリザベート』が日本で上演される前、1970 年代に流行した『ベルサイユのばら』の存在である。

『ベルサイユのばら』とは池田理代子原作の少女漫画で、1789 年に起きたフランス革命前後を舞台としている。ここでは、フランス王妃マリー・アントワネット、スウェーデン貴族のハンス・アクセル・フォン・フェルゼン、そしてフランス近衛兵を務める男装の麗人オスカル・フランソワ・ド・ジャルジェという人物を中心として物語が描かれている。そして、この『ベルサイユのばら』が 1974 年の宝塚で舞台化されると、大きな人気を博

¹¹ 産経ニュース「『エリザベート』観客動員 250 万人達成」2018 年 9 月 20 日、
<https://www.sankei.com/west/news/180920/wst1809200047-n1.html>、2021 年 1 月 16 日アクセス。

¹² 東宝株式会社演劇部『ミュージカル エリザベート』プログラム、2019 年。

し、「ベルばらブーム」を引きおこした¹³。この作品の中の主要人物であるマリー・アントワネットはオーストリア・ハプスブルク家の出身である。そのため、宝塚歌劇団の主な観客層である女性にとっては、少女漫画と宝塚歌劇団の『ベルサイユのばら』（1974）を通して知っていた「ハプスブルク家」に対して一定の理解があった。そして王宮を舞台にしているという華やかなイメージが『エリザベート』という作品への観客の関心につながったと考えられる。

また、演出面の工夫も『エリザベート』のヒットに影響していると考えられる。『エリザベート』の場合、日本版として上演されるにあたって脚本や楽曲に関する変更があった。そして、そのように演出面で変更を加えることをクンツェらは承諾している¹⁴。例えば、オーストリアの歴史になじみのない日本人のために、日本版ではハンガリー革命に関する描写が強く描かれている¹⁵。このように物語の対立構造を明確にすることで、歴史的な前提知識が乏しい日本人にも理解がしやすい内容になっているのだ。



画像 1：『ベルサイユのばら』（1974年 宝塚歌劇団初演）¹⁶

(2)登場人物への共感

¹³ 中本千晶「宝塚『歌劇』の変遷と男役の変遷」岩崎、渡辺編『世界のミュージカル・日本のミュージカル』212頁。

¹⁴ ミハヤエル・クンツェ、シルヴェスター・リーヴァイ、小池修一郎『オールインタビュー ミュージカル『エリザベート』はこうして生まれた』日之出出版、2016年、126頁。

¹⁵ 前掲書、122-124頁。

¹⁶ 宝塚歌劇団「宝塚歌劇の歩み（1962年－1981年）」

<https://kageki.hankyu.co.jp/fun/history1962.html>、2021年1月16日アクセス。

次に、登場人物への共感について言及する。『エリザベート』はどのようにして観客からの共感を得ることができたのか。観客が作品を好きになる理由として、登場人物への感情移入が挙げられる。そのため、主人公であるエリザベートに注目し、その人物像が日本人の観客の共感を得られるものであったかを考察していく。

エリザベートは皇后という地位につきながらも、王家のしきたりを嫌い、自由に生きることを求め続けたが、このようなエリザベートの生き方が観客の多くの女性の共感を得ることが出来たのではないかと考える。初演当時の社会情勢をみると、この頃の日本では、1985年に男女雇用機会均等法が成立し、1999年には男女共同参画社会基本法が施行された¹⁷。このように女性の社会進出によりやく重きがおかれ始めた時代において、女性はいこうあるべきだ、皇后はいこうあるべきだといようなステレオタイプを破壊し、自分自身の自由を追求したエリザベートの姿は、人々の目に理想的に映ったのではないかと。これが、エリザベートという主人公が日本でも愛された理由の一つであると考えられる。

また、登場人物への共感という面でも、『エリザベート』は演出面の工夫が行われている。日本版初演で演出を手掛けた小池修一郎は「死」（ドイツ語で *Der Tod*）という役に対して「トート」（*Tod* の日本語発音として）と名付け、「愛と死の輪舞」という楽曲の追加など出演場面を増やすなどの変更を行ったのである。これは、宝塚歌劇団がスター・システムを採用しており、男役のトップスターが主演としてトートを演じたためである。こうして、観客は「死」という抽象的な概念を「トート」という人物として捉えて物語を理解し、トートに対しても感情移入がしやすくなったのではないかと考えられる¹⁸。



¹⁷ 内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会基本法制定のあゆみ」2016年、https://www.gender.go.jp/about_danjo/law/kihon/situmu3.html、2021年1月9日アクセス。

¹⁸ 阪上由紀「海外ミュージカルのタカラヅカ化：《エリザベート》の場合」『人文論究』60巻1号、2010年5月、200-201頁。

(3)作品の上演方法

『エリザベート』が成功した理由はその上演方法にもあると考えられる。特に、宝塚版において、本作はお披露目公演や退団公演の演目として選ばれてきた。下の表は宝塚での上演記録である。表から分かる通り、『エリザベート』はトップスター・トップ娘役のお披露目公演や退団公演に多く上演されている作品である。

これは、安定した観客数を確保できる見込みがあるためだろう。また、再演を重ねるなかで、トップにとっては集大成の作品として位置づけられるようになり、ファンの注目が集まる作品となっていったことも確かである。このように『エリザベート』は、スター制と公演時期とを組み合わせることによって、初演以降安定した集客を得ることができているのだと考えられる。

公演年・組	トート	エリザベート
1996 年雪組	一路真輝	花總まり
1996 年星組	麻路さき	白城あやか
1998 年宙組	姿月あさと	花總まり
2002 年花組	春野寿美礼	大鳥れい
2005 年月組	彩輝直	瀬奈じゅん
2007 年雪組	水夏希	白羽ゆり
2009 年月組	瀬奈じゅん	風七瑠海
2014 年花組	明日海里お	蘭乃はな
2016 年宙組	朝夏まなと	実咲凜音
2018 年月組	珠城りょう	愛希れいか

ピンク…トップスターお披露目公演

水色…トップスター又はトップ娘役退団公演

表 1 : 『エリザベート』歴代キャスト²⁰ (宝塚歌劇公式ホームページをもとに筆者作成)

IV 事例② : 『ノートルダム・ド・パリ』 (1998) の場合

¹⁹ 画像は、東宝演劇部公式 Twitter アカウントより

https://twitter.com/toho_stage/status/691419491205406720?s=21、2021 年 1 月 20 日アクセス。

²⁰ 宝塚歌劇団「『エリザベート』上演記録 配役見比べ表」2016 年 6 月 10 日、

<https://kageki.hankyu.co.jp/revue/2016/elisabeth/cp173a000000ysvp-att/cp173a000000yv00.pdf>、2021 年 1 月 20 日アクセス。

1 作品の概要

続いて、二つ目の事例として、フレンチ・ミュージカルの『ノートルダム・ド・パリ』を扱う。『ノートルダム・ド・パリ』はフレンチ・ミュージカルの草分け的存在といわれる有名な作品である。フランス人作家のヴィクトル・ユーゴー (Victor Hugo) による『ノートルダム・ド・パリ』という小説をもとに、リュック・プラモンドン (Luc Plamondon) の作詞、リシャール・コッシアンテの作曲によってミュージカル化され、1998年パリで初演が行われた。まずは、『ノートルダム・ド・パリ』の登場人物、作品の内容について簡単に説明する。

(1) 主な登場人物

エスメラルダ：ジプシーの娘

カジモド：ノートルダム大聖堂の鐘付き男、生まれつき背中と顔に瘤がある

フロロ：ノートルダム大聖堂の司教、カジモドを育てた

グランゴワール：吟遊詩人

フェビュス：近衛隊長

(2) あらすじ

15世紀末のフランス。流れ着いたジプシーの一団のなかに、エスメラルダという娘がいた。その妖艶な美しさゆえに、婚約者を持つ近衛隊長のフェビュス、ノートルダム大聖堂の司教であるフロロは、エスメラルダに惹かれていく。そして、醜い鐘つき男のカジモドもまた、エスメラルダの優しさに触れ、彼女への一途な思いを募らせていくのだった。こうして3人の男に思いを寄せられるなか、エスメラルダの想いはフェビュスにあった。ところがある晩、エスメラルダと密会したフェビュスが何者かに刺され、その罪を着せられたエスメラルダは投獄されてしまう。カジモドはエスメラルダを救出し、ノートルダム大聖堂にかくまうが、暴動の混乱のなかで、エスメラルダは再び捕らえられ、死刑が宣告される²¹。

2 日本での上演記録

次に、日本での上演歴から、『ノートルダム・ド・パリ』が日本でヒットしたかどうかを評価する。この作品の日本初演は、2013年の東京、大阪、名古屋での来日公演である。

²¹ Harmony JAPAN「ノートルダム・ド・パリ (ミュージカル) 日本公演」2012年、<http://www.harmonyjapan.com/ndp2013/index.html>、2021年1月20日アクセス。

会場はそれぞれ、東急シアターオーブ、梅田芸術劇場大ホール、愛知県芸術劇場大ホールであり、2013年2月27日から4月7日にかけて合計35回の公演が行われた²²。これらの公演は海外キャストによって英語版・日本語字幕付きで上演されている。しかし、その後は5年以内の再演がなく、来日公演、日本語版の上演のいずれも行われていない²³。以上の点から、『ノートルダム・ド・パリ』は日本でヒットしなかった作品と判断することができる。

しかし、この作品は世界的にみると、フレンチ・ミュージカルを世界に広めた大ヒット作品であり、その規模は『エリザベート』と同等といえる。1998年のパリ初演以来、2016年の時点で世界20カ国、8言語で上演され、観客動員数約1100万人に到達している²⁴。アジア圏では中国、韓国、台湾で度々上演されており、特に、韓国では韓国語版が制作されたほどである²⁵。このように他国と比較すると、この作品が日本でヒットしていないということがより一層明確になる。

3 『ノートルダム・ド・パリ』が日本でヒットしなかった理由

(1) 作品に対する観客の前提知識

最後に、『ノートルダム・ド・パリ』が日本でヒットしなかった要因を考える。ここでも前章と同様に、作品に対する観客の前提知識、登場人物への共感、上演方法という3つの要因を扱う。まずは、前提知識に関して考察する。

先に述べたように、『ノートルダム・ド・パリ』はユーゴーの小説『ノートルダム・ド・パリ』を原作にしている。ユーゴーは『レ・ミゼラブル』の作者として有名であり、この小説を題材にしたロンドン・ミュージカル『レ・ミゼラブル』は、ミュージカルの金字塔とも呼ばれるほどの評価を得ている。そのため、『ノートルダム・ド・パリ』はユーゴーの作品として日本人からの知名度を高めやすかったのではないかと考える。

一方、作品の世界観や時代設定については日本人の知識が乏しい領域である。舞台は15世紀末のパリであり、中世と近代の境目のような時期である。そして、教会の教えが重んじられ、エスメラルダのようなジプシーが差別されるような世界である。こうした時代設定や宗教的背景などは日本の観客にとってなじみ深いものとはいえない。

しかし、実は、ユーゴーの小説『ノートルダム・ド・パリ』はディズニーによって『ノ

²² 同上、2021年1月20日アクセス。

²³ Le site officiel de Notre Dame de Paris, *Histoire*, 2015,

<https://notredamedeparislespectacle.com/histoire/> (accessed December 28, 2020).

²⁴ Ibid (accessed December 28, 2020).

²⁵ Ibid (accessed December 28, 2020).

ートルダムの鐘』(1996年公開)としてアニメーション映画化されている。『美女と野獣』や『リトルマーメイド』といったディズニープリンセスの作品に比べると、『ノートルダムの鐘』は知名度が劣るが、ディズニーによってアニメ化されているという点は、ミュージカル作品の知名度にも少なからず影響を与えたのではないかと考える。観客が物語の内容をある程度知っているという点では良い影響も想定されるが、そのことがイメージの固定化につながり、ディズニー版を知る観客にとってフレンチ・ミュージカル版はすれ違いを生んでしまうという可能性もある。

例えば、ディズニー版では醜い姿といわれるカジモドの描写も抑えられている。そして、物語の最後はエスメラルダもカジモドも死なずにハッピーエンドを迎える。一方の、ミュージカル『ノートルダム・ド・パリ』ではカジモドの顔の傷をリアルに表現しており、最後はエスメラルダの遺体にカジモドが歌いかけるという悲劇的な結末で終了する。また、ミュージカルでは、コンテンポラリーダンスが取り入れられているため、ディズニー映画よりも抽象的な表現が多い²⁶。こうした違いは、ディズニーの世界観をイメージしていた観客には大きなギャップとなっただろう。このようなギャップはミュージカル作品に対して、「ディズニーとは異なる作品」という印象を与え、親しみやすさを低下させてしまうと考えられる。

なお、ディズニー版をもとにしたミュージカル『ノートルダムの鐘』(2014)も存在する。この作品は、ディズニー劇場版長編アニメーションに基づき、ディズニー・シアトリカル・プロダクションズが制作、2014年にアメリカのカリフォルニア州サンディエゴのラ・ホイヤ劇場で初演、その翌年にニュージャージー州ペーパーミル劇場で上演された。脚本はピーター・パーネル (Peter Parnell)、作曲はアラン・メンケン (Alan Menken)、そして作詞はスティーヴン・シュワルツ (Stephen Schwartz) によって行われた。日本でも2016年12月11日から劇団四季にて、日本語翻訳版が上演され、それ以降毎年公演が行われている。

²⁶ Harmony JAPAN「ノートルダム・ド・パリ (ミュージカル) 日本公演」2012年、
<http://www.harmonyjapan.com/ndp2013/index.html>、2020年1月20日アクセス。



画像 3 : ミュージカル『ノートルダム・ド・パリ』のカジモド²⁷



画像 4 : ディズニー映画版『ノートルダムの鐘』のカジモド²⁸

(2)登場人物への共感

続いて、作品の登場人物への共感が得られるかどうかを考察していく。ここでは主要人物であるカジモドとエスメラルダを挙げる。

まず、カジモドである。彼は醜い見た目で生まれたがゆえに捨てられ、ノートルダム大聖堂の中の閉ざされた世界で生きてきた。そんな彼は優しく純粋な心を持ち、エスメラルダに一途な想いを抱くが、その恋心はかなわない。そんなカジモドのあまりの純粋さゆえ

²⁷ コンフェティ「ノートルダム・ド・パリ観劇記 第一幕ストーリー編」2013年4月、<http://conpetti.com/LS/?p=119>、2021年1月16日アクセス。

²⁸ ディズニー公式サイト「ノートルダムの鐘 ブルーレイ・DVD・デジタル配信」<https://www.disney.co.jp/studio/animation/0116.html>、2021年1月16日アクセス。

に、観客は自分自身の姿をカジモドと重ねることはなかなか難しい。

次にエスメラルダである。エスメラルダは自分の意志を持ち、強く生きる女性であるが、ジプシーだからこその社会的立場の難しさや、カジモド、フェビュス、フロロとの関係性などは複雑である。現代の女性が自分自身に重ね合わせて感動することや、エスメラルダのように生きたいと思うことは、エリザベートに比べると少ないと考えられる。

以上のように、エリザベートと比べると、『ノートルダム・ド・パリ』は登場人物の設定と作品の歴史的背景の結びつきが強い。そのため、観客は登場人物と自分を重ねて共感するということが難しいのではないかと考える。

(3)作品の上演方法

最後は作品の上演方法についてである。『ノートルダム・ド・パリ』の日本公演は来日公演として英語版・日本語字幕付きで上演された。キャストは他国での公演に出演していた俳優ばかり²⁹であったため、実力面は保障されていたが、日本での知名度は必ずしも高いとはいえない。日本版としての翻訳上演と来日公演を比較すると、来日公演はフレンチ・ミュージカルを本格的に楽しむことができるという点で大きなメリットがある。しかし、一方ではスター・システムを採用できない点から、作品の内容で売り込まなければならないという課題が生じる。このことから、『ノートルダム・ド・パリ』の場合は、作品の内容に軸を置き、日本でヒットさせるということが難しかったのではないかと考える。

おわりに

本論文では、フレンチ・ミュージカルとウィーン・ミュージカルが日本でヒットしやすくなる要因として、作品に対する観客の前提知識と登場人物への共感、スター・システムの採用を挙げた。そして、この仮説を確かめるために『エリザベート』と『ノートルダム・ド・パリ』を事例として比較した。そして、これらの作品の比較を通じて、作品に対する前提知識、登場人物への共感、スター・システムの採用が作品のヒットに影響を与えていることが分かった。

特に、作品に対する前提知識は歴史上の人物や出来事を扱うことが多いフレンチ・ミュージカル、ウィーン・ミュージカルにおいて重要な点であると考えられる。2つ目の要因である登場人物への共感についても、観客が登場人物のどのような点に共感できるのかということ进行分析していく意義があると考えられる。この2つの要因に関しては、演出面で日本の観

²⁹ Harmony JAPAN「ノートルダム・ド・パリ（ミュージカル）日本公演」2012年、
<http://www.harmonyjapan.com/ndp2013/profile.html>、2020年12月28日アクセス。

客とマッチする点を強調し、すれ違いが生じる点を工夫していくことが重要だと考える。

そして、3つ目のスター・システムについては、一定の観客数を確保するという点では作品のヒットに影響があるが、必ずしもヒットを保証するような要素ではないと考える。また、上演方法については外国版の来日公演よりも日本版での公演の方がヒットしやすいのではないかと考える。それは、先に挙げた2つの要因に関して、演出を加えられる点や、歌や台詞の意味の伝わりやすさが期待できるためである。そのため、海外ミュージカルを上演のヒット要因を分析していくには、スター・システムと作品主義のどちらの形態をとるかだけでなく、日本版と外国版どちらを上演するか、そして、日本版に対するオリジナル演出がどれほど可能であるかといった視点も必要であると判明した。

最後に今後の研究課題について述べる。まず一つ目に、本研究の主張がフレンチ・ミュージカル、ウィーン・ミュージカルに限定されたものなのかどうかを解明するという課題がある。今回の仮説で提示した、ヒットの要因は普遍的なものであり、ブロードウェイ・ミュージカルなどを含めた海外ミュージカル作品全体に当てはまる可能性は十分ある。研究の対象を広げ、海外ミュージカル作品の国内ヒットの要因を追究することは、今後の国内ミュージカル市場拡大のためにも必要とされる。

また、二つ目の課題として、楽曲などの芸術的な要素が作品のヒットとどれほど関係するのかという疑問がある。今回は作品そのものの音楽性についてはほとんど言及しておらず、事例研究の際も比較を行っていない。これは、日本の観客が好む音楽や舞台演出がどのようなものであるか仮定することができなかつたためであるが、こうした芸術的側面からもヒットの要因を見つけることができれば、海外のミュージカルの上演だけでなく、国内ミュージカルを制作する際にも有効かもしれない。

参考文献リスト

《書籍》

- ・渡辺諒『フランス・ミュージカルへの招待』春風社、2012年。
- ・岩崎徹、渡辺諒編『世界のミュージカル・日本のミュージカル』春風社、2017年。
- ・小山内伸『進化するミュージカル』論創社、2007年。
- ・ミヒャエル・クンツェ、シルヴェスター・リーヴァイ、小池修一郎『オールインタビューズ ミュージカル『エリザベート』はこうして生まれた』日之出出版、2016年。

《論文》

- ・渡辺芳敬「ウィーン発ミュージカル『エリザベート』」『学術研究（複合文化学編）』第58号、2010年2月、13-26頁。
- ・阪上由紀「海外ミュージカルのタカラヅカ化：《エリザベート》の場合」『人文論究』60

巻1号、2010年5月、183-203頁。

《Web サイト》

- ・渡辺諒「作曲家リシャール・コッシアンテ インタビューレポート」2013年、
<http://www.harmonyjapan.com/ndp2013/interview.html>、2021年1月9日アクセス。
- ・VBW International, *Elisabeth-SUCCESS STORY & PRODUCTION NOTES*,
<https://www.vbw-international.at/home/elisabeth> (accessed December 28, 2020).
- ・産経ニュース「『エリザベート』観客動員250万人達成」2018年9月20日、
<https://www.sankei.com/west/news/180920/wst1809200047-n1.html>、2021年1月16日アクセス。
- ・宝塚歌劇団「宝塚歌劇の歩み（1962年－1981年）」
<https://kageki.hankyu.co.jp/fun/history1962.html>、2021年1月16日アクセス。
- ・内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会基本法制定のあゆみ」2016年、
https://www.gender.go.jp/about_danjo/law/kihon/situmu3.html、2021年1月9日アクセス。
- ・東宝演劇部公式 Twitter アカウント、
https://twitter.com/toho_stage/status/691419491205406720?s=21、2021年1月20日アクセス。
- ・宝塚歌劇団「『エリザベート』上演記録 配役見比べ表」2016年6月10日、
<https://kageki.hankyu.co.jp/revue/2016/elisabeth/cpl73a000000ysvp-att/cpl73a000000yv00.pdf>、2021年1月20日アクセス。
- ・Harmony JAPAN「ノートルダム・ド・パリ（ミュージカル）日本公演」2012年、
<http://www.harmonyjapan.com/ndp2013/index.html>、2021年1月20日アクセス。
- ・Le site officiel de Notre Dame de Paris, *Histoire*, 2015,
<https://notredamedeparislespectacle.com/histoire/> (accessed December 28, 2020).
- ・コンフェティ「ノートルダム・ド・パリ観劇記 第一幕ストーリー編」2013年4月、
<http://conpetti.com/LS/?p=119>、2021年1月16日アクセス。
- ・ディズニー公式サイト「ノートルダムの鐘 ブルーレイ・DVD・デジタル配信」
<https://www.disney.co.jp/studio/animation/0116.html>、2021年1月16日アクセス。

《公演プログラム》

- ・宝塚歌劇団『三井住友 VISA カードミュージカル エリザベート』プログラム、2014年。
- ・東宝株式会社演劇部『ミュージカル エリザベート』プログラム、2019年。